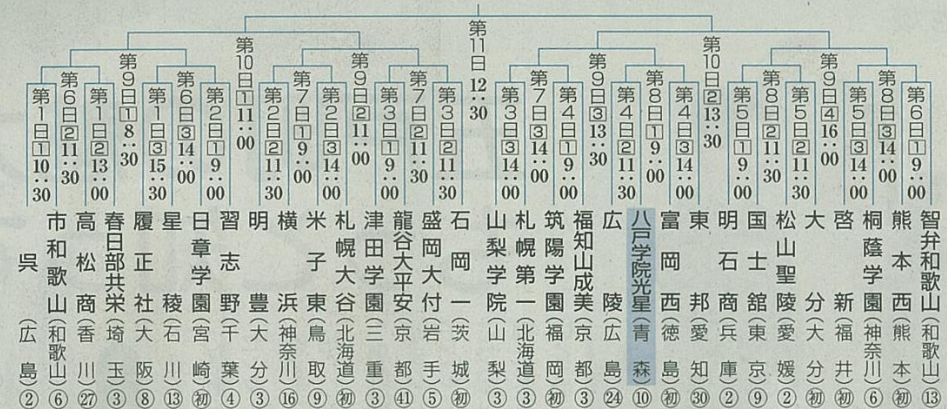


第91回 選抜高校野球大会 ◆3月23日(土)から12日間(雨天順延、準々決勝翌日の休養日1日含む)。開会式は23日午前9時 ◆甲子園球場 ◆左が一塁側。□数字は試合順、○数字は出場回数



センバツ組み合わせ決まる

盛大付は石岡一(茨城)と

第91回選抜高校野球大会の組み合わせ抽選会が15日、大阪市北区の毎日新聞大阪本社オーバルホールで開かれ、出場32校の対戦カードが決まった。注目の奥川恭伸投手を擁する星稜(石川)は、第1日の第3試合で強豪の履正社(大阪)と対戦する。平成最後となる甲子園大会は、23日に甲子園球場で熱戦の火ぶたが切られる。

通じて初出場の札幌大谷(北海道)は、第2日の第3試合で米子東(鳥取)と顔を合わせる。21世紀枠の石岡一(茨城)は盛岡大付(岩手)、富岡西(徳島)は東邦(愛知)と対戦。開幕試合は呉(広島)―市和歌山のカードとなった。開会式の選手宣誓は、広陵(広島)の秋山功太郎主将が決まった。大会は順調に日程を消化すれば、4月3日に決勝が行われる。

の舞台を踏む八学光星。大会4日目、過去3回の優勝を誇る強豪・広陵(広島)との初戦を引き当てた武岡龍世主将は「初日や2日目より日程は良い。個人的にも打者として、評判の投手を相手に打って注目されれば」と気合を入れた。地元では屋内練習が中心だったが、大阪入り後はグラウンドに入るのが楽しみ」と笑顔を見せる。ただ

光星、広陵かく戦う

力全部ぶつきたい 自信持ち本番臨む
光星・仲井宗基監督 誰が相手でも自分たちの力をどれだけ発揮できるかだ。ひと冬かけて付けた力を全部ぶつきたい。楽しみ。広陵は超名門だが、光星は甲子園で名門と戦って歴史をつくってきた。対戦は大きな喜びだ。しっかり態勢を整えて戦いに臨みたい。

簡単に勝てない 低めを突く意識で
広陵・中井哲之監督 甲子園は何が起きるか分からぬ。一戦一戦、やってきたことを信じて臨む。毎年一緒だが、運を持っているかどうかわからない。光星は打力があがり、投手も面白いイメージ。簡単には勝たせてくれないだろう。先制して広陵の流れに持っていきたい。

チームは練習試合で勝ち星に恵まれず、自身の打棒も湿り気味。武岡は「全体的に勝利への気持ちが必要。目いっぱい汗をかき、試合で自信を持っていけるよう整えたい」と前を見据えた。